

Free

Special
Edition

Mac Fan for iPhone 6



新しいiPhone & iOS 8が
この一冊を読めばサクッとわかる

混まない、速い、つながりやすいLTEでサクサク快適

どっちも欲しいiPhone 6&6 Plus

Design 1 デザイン

広くて薄いシームレスボディは工芸品クラスのクオリティ

Detail & Overview

iPhone 6 / 6 Plus



**iPhone 6
Plus**

薄さ 7.1 mm



①酸化皮膜処理されたアルミニウムからなる精密なユニボディの筐体は完全になめらかで連続的な表面が特徴だ。②カバーガラスは側面付近で下に向かってカーブし、アルミニウムボディに継ぎ目なくつながる。③電源オン／オフボタンや音量ボタンのエッジは高度な切削加工による精巧な作り。内側にダイヤモンドカットが施され、キラリと光る。④開口部はさらに減り、スピーカ部分は2列から1列へと変更。目立たない部分だが、スピーカグリルの穴の大きさもそれぞれ均一に揃えるなどのこだわり。⑤カメラのレンズ部分のエッジを垂直に削り出すのではなく、やや斜めにカットしアクセントにしている。

iPhone 6

薄さ 6.9 mm

筐体は大型化したものの、持ちやすさは損われていない。従来の7.6ミリから、iPhone 6は6.9ミリ、6 Plusは7.1ミリへと薄型化し、ボディデザインも一新。アルミニウム製のエッジ部分を垂直に切り落として細かく面取りしていた前機種と比べると、新iPhoneは側面が1つの連続した曲線で構成されている。また、外側に向けてカーブを描く力やズレもなく見事に一体化されており、パーソン同士のわざかなつなぎ目もないデザインを実現している。これによって高級さを演出するといった効果はもちろんのこと、側面に角がないので持った際によく手に馴染むという利点がある。まさに、機能美を追求した工芸品クラスともいえる完成度の高さなのである。

iPhone 6 / 6 Plusはそれゴールド、シルバー、スペースグレイの3つのカラーバリエーションがあり、容量は16 GB、64 GB、そして128 GBの3種類だ。

機能と美しさの両立

“Bigger than bigger”。新しいiPhoneはそのキャラッチフレーズが意味するように、サイズが大型化しただけでなく、それ以上の新しさをもって大きな進化を遂げた。新たに登場したモデルは、前機種のiPhone 5 / 5sは4インチだったが、iPhone 6は4.7インチに、6 Plusは5.5インチへとディスプレイが大きくなり、新たな「レティナ(Retina) HDディスプレイ」を採用したことでの視認性が大幅に向上している。

筐体は大型化したものの、持ちやすさは損われていない。従来の7.6ミリから、iPhone 6は6.9ミリ、6 Plusは7.1ミリへと薄型化し、ボディデザインも一新。アルミニウム製のエッジ部分を垂直に切り落として細かく面取りしていた前機種と比べると、新iPhoneは側面が1つの連続した曲線で構成されている。また、外側に向けてカーブを描く力やズレもなく見事に一体化されており、パーソン同士のわざかなつなぎ目もないデザインを実現している。

これによって高級さを演出するといった効果はもちろんのこと、側面に角がないので持った際によく手に馴染むという利点がある。まさに、機能美を追求した工芸品クラスともいえる完成度の高さなのである。

iPhone 6 / 6 Plusはそれゴールド、シルバー、スペースグレイの3つのカラーバリエーションがあり、容量は16 GB、64 GB、

iPhone 6 と 6 Plusの 注目ポイント

片手でも快適操作できる 「簡易アクセス」とは?

画面サイズがiPhone 5s／5cよりもさらに大きくなったことで、片手持ちでの操作がしにくくなるのではないかと心配になった人もいるだろう。この問題への対策として、iPhone 6／6プラスでは画面の上まで指を伸ばさなくても操作できる新機能「簡易アクセス」を採用。ホームボタンを2回タップすることで、画面全体が下方向にスライドし、指が届きやすくなるというシンプルな解決策だ。



ホームボタンを2度タップすると簡易アクセスが有効になる。アプリを利用している際はメニューバーなど下部にメニューバーをタップしてページの上部に移動するといった操作ができる。



ホーム画面ではメニューバーはそのままにアイコンだけが下がってくる。通知センターの呼び出しは画面上部から下方向にフリックする必要がある。簡易アクセスを解除するにはホームボタンをダブルタップする。

環境光・近接センサ

通話時にバックライトを消灯する目的などで使われる環境光・近接センサ。

着信／ サイレント スイッチ

ボタンの形状はこれまでの円形から縦長に変更された。

ホームボタン／ タッチIDセンサ

指紋認証センサのタッチIDをホームボタンに内蔵。タッチするだけでロック画面の解除やアップルIDが認証できる。

ヘッドセットコネクタ

iPhone 5sまでの本体上部から正面から見て右サイドに移動したことで指が届きやすくなつた。

FaceTimeカメラ

フロントカメラの位置はiPhone 5sのときの上部中央からレシーバー横に移動している。

ナノSIM カードスロット

レシーバー／前面側マイク

TrueToneフラッシュ

色温度の異なる2つのLEDを調光して自然な色合いに照らせるトゥルートーンフラッシュをiPhone 5sに引き続き搭載。従来のiPhone 5sと比べると円形になり、わずかに大型化している。

iSightカメラ

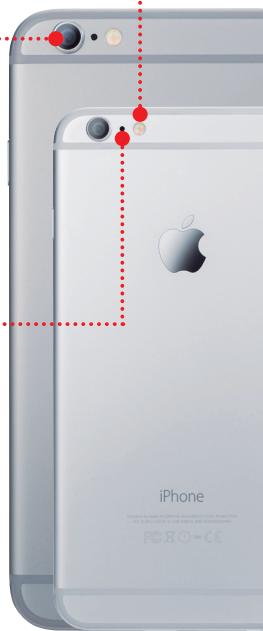
800万画素のメインカメラ。基本スペックはiPhone 5sと同等だが、AF性能やビデオ撮影機能が強化された。光学式手ぶれ補正是iPhone 6プラスのみ。

背面側マイク

主に通話時の背景ノイズキャンセルのために用いられるマイク。

スリープ／ スリープ解除ボタン

iPhone 5sまでの本体上部から正面から見て右サイドに移動したことで指が届きやすくなつた。



スペースグレイ

シルバー

ゴールド



タッチIDでは、指紋をパスコードとして使える。「設定」アプリから事前に指紋を登録しておけば、あとはホームボタンにタッチするだけで、ホームボタンに埋め込まれたタッチIDセンサが指紋を読み取る。

筐体の各種操作ボタン、タッチIDを搭載したホームボタンなどの役割や配置は基本的にiPhone 5sを踏襲している。ただし、スリープ／スリープ解除ボタンだけが、本体上部から側面に移動した。

iPhone 6／6プラスにはもつとも先進的なモバイルオペレーブ／スリープ解除ボタンだけが、本体上部から側面に移動した。iPhone 6／6プラスにはテイングシステムの最新バージョンであるiOS 8も搭載されており、画期的なデザインとテクノロジーが相まって、これまで以上に便利でスマートなモバイルライフを私たちに提供してくれる。

筐体の各種操作ボタン、タッチIDを搭載したホームボタンなどの役割や配置は基本的にiPhone 5sを踏襲している。ただし、スリープ／スリープ解除ボタンだけが、本体上部から側面に移動した。iPhone 6／6プラスにはテイングシステムの最新バージョンであるiOS 8も搭載されており、

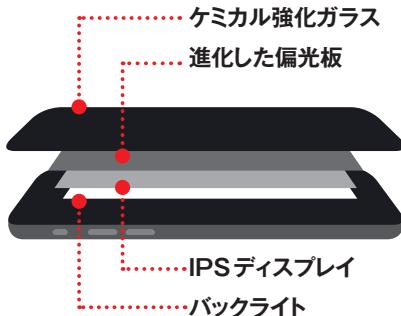
劇的に薄い継ぎ目のないデザインには、革新的なテクノロジーが多数詰め込まれている。超高速バッファーマンスと電力効率を実現するアップルの「A8チップ」や、iPhone 6／6Plusをデジタルカメラとして十分に機能させる先進的なiSight（背面）カメラ、美しいセルフピクチャやビデオチャットを行うための「フェイスタイムHD」カメラ、そして指で触れるだけで簡単かつ安全にロック画面の解除やコントンツ購入の認証ができる「タッチID（Touch ID）」などは、iPhone 6／6Plusの最大の利点といえるだろう。さらには、加速度センサやジャイロスコープ、コンパス、そして今回新たに搭載された気圧計からの動作データなどを集めるM8モーションコプロセッサ、またアップルの新しいモバイルペイメントサービス「アップル・ペイ（Apple Pay）」（現在米国のみで展開）による決済に利用されるNFCも搭載している。

詰め込まれた先進性

ディスプレイ 2

史上最高の精細度を実現した Retina HDディスプレイを搭載

注目のテクノロジー



これまででもっとも薄いRetina HDディスプレイを実現。ディスプレイとガラス面までの距離も短いためタッチ操作のときのパララックス(視差)も最小限に。まるでプリントした写真が貼ってあるようなリアル感だ。



エッジの仕上げが変更されておりガラス自体が丸みを帯びて筐体フレームとシームレスにつながっていく。サファイアガラスの採用が噂されていたが、従来どおりケミカル強化ガラスを採用している。

美しいRetina HDディスプレイ



4.7インチ
1334×750ピクセル
326ppi

5.5インチ
1920×1080ピクセル
401ppi

実際の見た目は?



iPhone 6シリーズとiPhone 5sのディスプレイを比較。正面から見た限りではややコントラストが高く、明るい程度だが、斜め左右から見た場合、6プラスや6は明らかに5sと比べて視認性が向上していることがわかる。

iPhone 5sとiPadエア、iPhone 6プラスの液晶ディスプレイを500倍に拡大したところ。iPhone 5sは整然と長方形の画素(サブピクセル)が並んでいるが、iPadエアとiPhone 6プラスでは1つの画素が2つに分れて対称に並んでいるのがわかる。これがデュアルドメインピクセルである。

Retina HDディスプレイは隅々まで美しい。sRGBを全域カバーしながら高いコントラスト、広い視野角を実現している。iPhone 6プラスでは史上最大の画素密度も実現した。



一方のiPhone 6プラスは、5.5インチという史上最大の大きさでかつ史上最大の画素密度である401ppiを実現。解像度は1920×1080ピクセルとフルHDと同等だ。数十インチのフルハイビジョンテレビと同じピクセルが手のひらサイズに凝縮されている。アップルが「Retina HDディスプレイ」と名付けたディスプレイには、アップルデバイスで初めてのテクノロジーが搭載されている。それが、より高いコントラストと広い視野角を実現するために紫外線を利用した「光配向プロセス」だ。IPSなどの既存の液晶パネルは黒が浅くなるという性質があるが、光配向を利用すると液晶による遮へいが完全となる。そのおかげで、コントラスト比は1000:1以上に向上するといわれ、実際に新iPhoneのコントラストも大幅に向上し写真や動画をより美しく表示できる。

さらに、これまで小型デバイスの液晶パネルでは使われていなかつた「デュアルドメインピクセル」も採用し、iPhoneを縦向きで使っても横向きで使っても広い視野角を実現。また、進化した偏光板により太陽光下でも見やすくなっている。

iPhone 6と6プラスの目玉は大きくなつたディスプレイだ。iPhone 6の4.7インチディスプレイはiPhone 5の4インチディスプレイをそのまま広げたもので画素密度は326ppi、解像度は1334×750ピクセル。720pビデオの一回り大きいくらいの画素数だ。

クオリティも大幅アップ

新iPhoneの魅力

パフォーマンス Performance 3



ピクセルが約3倍になっても、 パフォーマンスは変わらず!

バッテリーライフは大幅にアップ

	iPhone 5s	iPhone 6	iPhone 6 Plus
オーディオ	最大40時間	最大50時間	最大80時間
HDビデオ	最大10時間	最大11時間	最大14時間
Wi-Fiでのインターネット利用	最大11時間	最大11時間	最大12時間
4G LTEでのインターネット利用	最大10時間	最大10時間	最大12時間
3Gでのインターネット利用	最大8時間	最大10時間	最大12時間
3Gでの通話	最大10時間	最大14時間	最大24時間
連続待受時間	最大10日間(250時間)	最大10日間(250時間)	最大16日間(384時間)

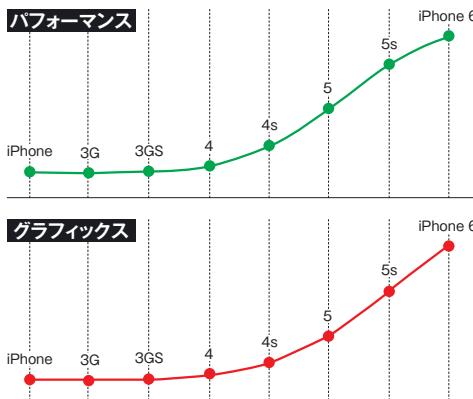
iPhone 6 プラスのバッテリ容量は2915mAh、iPhone 6 は1810mAhと、5sの1560mAhから大幅に増えている。

性能が大幅向上

新しく搭載されるA8チップは、デスクトップクラスのパフォーマンスを誇る64ビットアーキテクチャとなるA8チップの1.3GHzに対して、A8チップは1.4GHzとクロックアップはわずかだが、CPUパフォーマンスが25%アップし、GPUパフォーマンスも50%アップしている。ベンチマーク



iPhone 6シリーズに搭載されるのは、第2世代64ビットアーキテクチャとなるA8チップだ。iPhone 5sのA7チップの1.3GHzに対しても、A8チップは1.4GHzとクロックアップはわずかだが、CPUパフォーマンスが25%アップし、GPUパフォーマンスも50%アップしている。ベンチマークテストや実際の操作でもレスポンスは良好だ。



A8チップは史上最速のiOSデバイス用のプロセッサだ。パフォーマンスは初代iPhoneの最大50倍、グラフィックスは最大84倍を説いている。

バッテリーライフは、iPhone 6 プラスでは最大80時間のオーディオ再生、最大14時間のHDビデオ再生、最大12時間のインターネット利用など、手のひらサイズにも関わらず抜群。パフォーマンスを向上させながら、バッテリーを犠牲にしないのはアップならではだ。また、モーションコントローラーM8は新しく追加された気圧計に対応し、対応アプリを用いることで気圧の変化による高度の計測（階段や坂の上り下りの判断）が可能だ。



新iPhoneの魅力

カメラ Camera 4

もっとも使われるデジカメが 今度はビデオも変える

新しい撮影モードを搭載



ビデオ撮影時には従来の120fps(フレーム/秒)に加えて、240fps / 720pのスローモーション撮影が可能になった。

AFの速度が2倍に



実際に使ってみるとAFの速度は圧倒される。iPhone 6を被写体に向けると、画面の中心に素早くフォーカスが合う。

新しいiPhoneのiSightカメラの最大のトピックは「フォーカスピクセル」だ。これは、一眼レフカメラで標準となっている高速かつ精度の高いフォーカス検知方式で、撮影時に一瞬でピントが合うのが特徴。従来と比べて速度が2倍になります。ため、フォーカスに迷ってシャッターチャンスを逃すことがなくなる。また、アップルは新iPhoneのフルHD動画撮影を可能にするなど、ビデオ機能も進化させている。なお、iPhone 6はデジタル式、暗光学式手ぶれ補正も新たに搭載され、iPhone 6はデジタル式、暗い場合などでもより手ぶれしにくく、美しい写真が撮影できる。

オートフォーカスが高速に

たくさん的新機能で iPhone がもっと便利に



子どもが自分のデバイスでコンテンツを購入すると、親のデバイスに通知が表示される。親はそれをワンタップするだけで承認、拒否を選ぶことができる。



ファミリー共有の設定は「設定」アプリから行う。購入アイテムや支払い方法などの設定を行ったあと、他のメンバーにファミリーへの参加の招待を行う。



ファミリー共有を設定すると、家族専用の共有アルバムが作られる。撮影した写真はもちろん、デバイス内の写真をすべて、家族みんなで共有できる。



カレンダーのイベントも共有できる。予定を家族皆で共有して自分のデバイスで確認できるので、冷蔵庫にべたべたメモを貼り付ける必要はなくなる。



複数の人間でチャットができるグループメッセージの機能では、チャットルームを作ることができる。参加者の追加／削除もワンタッチで簡単だ。



ボイスメッセージは片手で送信できる。マイクのボタンを押し続けると録音が開始され、指を画面の上にスライドすると、ボイスメッセージが送信される。



アイメッセージは図のように同期される。送られてきたメッセージはすべてのiOSデバイスで閲覧、返信できるので、デバイスをいちいち持ち替える必要はない。



「ハンドオフ」機能を使えば、近くにあるデバイス同士での同期が素早くワイヤレスで実行される。iPadとiPhoneを同時に持つ人にはとても便利な機能だ。



iOS 8 の新機能である「ファミリー共有」は家族間でさまざまなコンテンツを共有するためのものだ。iTunesストアやiBooksストア、アップストア(App Store)で購入したコンテンツ(音楽、本、映画、アプリ)は最大6人までの家族間で共有できる。家族のアップルIDやパスワードを共有することなく、それが購入したコンテンツをシェアできるのがメリットだ。また、同機能を利用する1枚のクレジットカードで家族みんなの

支払いが行えたり、子どもが購入したコンテンツを保護者がチェックすることも可能となる。子どもがコンテンツを購入するのに親のアクションを利用することもなく、かつ子どもがアプリにお金を使いすぎないようにチェックすることができるので便利だ(子どもが何かを購入する際は保護者となる親の承認が必要となる)。

さらに、カレンダーのイベントを共有したり、家庭用のフォトストリームを使って写真やビデオをシェアすることもできる。

iOS 8 の「メッセージ」アプリではテキストだけでなく、ボイス(声)でメッセージを送ることができる。画面右下のマイクボタンを長押しすると録音が開始され、ワンタッチで送信可能だ。

また、3人以上のグループメッセージにも対応。それぞれに名前を付けて、参加者を追加したり減らしたりできる。「今、どこ?」と聞かれたときに「現在地を送信」をタップして地図で位置情報を相手に送れる機能も搭載している。



ファミリー共有

メッセージ

「連絡」機能はアップル製品間の連携を高めるもの。中でも「ハンドオフ」はiPhoneで行っていた作業の続きを別のデバイスに引き継ぐ機能で、例えばiPhoneのサファリで見ていたWEBサイトの続きをiPadで表示したり、iPadで書いたメールをiPhoneで送信したりできる。メールやSafariのほか、マップやメッセージ、カレンダー、連絡先、一部の他社製アプリでも有効。OS X El Capitanで搭載のMacとも連携する。

連絡

写真



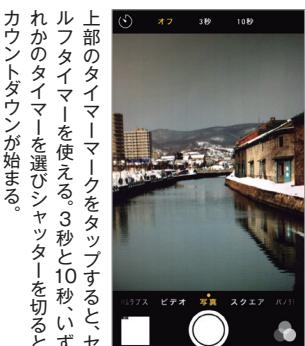
iPhoneやiPadを使って写真やビデオを撮っていると、データはどんどん増えてくる。膨大な写真、ビデオの中から目的の写真を探すのは大変だ。それを簡単にするために、iOS 8の「写真」アプリでは検索機能が強化された。撮影日や時間、場所といったメタデータで検索がかけられるほか、よく使う写真を検索候補に表示してくれる。



写真を表示した状態で[編集]メニューをタップして、写真の編集を行う。写真の傾きや明るさなどを設定可能。ユーザーの思いどおりに補正できるのがうれしい。



これまでの「写真」アプリでは、90度ごとの回転のみしかサポートされていなかったが、新しい写真アプリには細やかな傾き補正機能が追加された。



上部のタイマーマークをタップするとルフトайマーを使う。3秒と10秒いずれかのタイマーを選びシャッターを切ると、セカンドタップが始まる。

「写真」アプリの画面上部、虫眼鏡のマークをタップすると検索フィールドが現れる。撮影場所やアルバム名、日付などの情報を利用して写真の検索が行える。



間違えて写真を消してしまっても、一定期間以内に別のアルバムに写真を移動すれば削除を取り消すことができる機能も加わった。削除した写真は30日間、「最近削除した項目」アルバムに退避される。



画面をタッチするとそのポイントにフォーカスと露出を合わせてくれる。iOS 8からはタッチ後、上下または左右にスライドすることで露出補正が可能になった。

サイズなどをユーザーの思いどおりに調整できる。さらに便利なのは、サードパーティ製アプリとの連携機能だ。これまでサードパーティ製アプリで写真を加工したい場合などには、そのアプリを起動してiPhoneのカメラロールにアクセスする必要があつたが、これからは新しい「写真」アプリ上でサードパーティ製アプリを「プラグイン」のように呼び出せる。使い終わると自動的に写真アプリに戻るため、非常に使い勝手がいいのだ。



iPhoneで写真を撮影する際に利用する「カメラ」アプリには、新たな機能としてセルフタイマー、露出コントロール、タイムラプス動画が追加されたのがポイントだ。中でも、

セルフタイマーは3秒または10秒のタイマーでシャッターを切ることができる便利な機能。また、タイムラプスは長時間に渡って撮影した写真をつなげた微速度動画のこと。沈んでいく夕陽や花が開く瞬間といつたゆっくりと変化する風景などを撮影するのに最適だ。



ディスプレイの上端から指をフリックすると表示される通知センター。「[編集]」をタップすることで表示される内容のカスタマイズが可能。他社製アプリも追加できる。



画面表示される通知は右にスライドすることでロックが解除され、そのアプリに切り替わる。左にスライドすることで[返信]ボタンが現れ、タップすると返信ができる。

通知センターは、iOS 8でインタラクティブ性を高めた。例えば、メッセージなどでは画面に表示される通知をタップするだけで返信できるため、今使っているアプリを閉じる必要がない。また、カレンダーのイベント予定の連絡には「出席」「欠席」など内容に合わせて最適な返答が用意されているのでタップ1つで答えられる。また、通知センターはWi-Fi接続に対応したため、他社製アプリを追加して、アプリの情報を通知させることも可能だ。



日本語入力が可能なアプリを起動し、地球アイコンを長押しすると、リストの中からサードパーティ製キーボードを選択できる(図はSimejiの例)。



「設定」アプリの[一般]→[キーボード]→[キーボード]から[新しいキーボードを追加]を選択すると、インストール済みの対応アプリが表示される。

iOS 8では標準のソフトウェアキーボードだけでなく、他社製のものを追加することが可能だ。すでにMetamorpho-J社が「mazec」、ジャストシステムが「ATOK」、バーチャルが「Simeji」をiOS 8向けに提供している。また、英語キーボードの予測変換はメールの内容を解釈して適切な入力候補を表示する。ユーザーのメールの書き方を覚え、相手は誰なのか、どんな会話なのかななどを予想してそれに相応しい変換候補を表示してくれる。

通知センター

キーボード

指先でのタッチ入力だから迷わず直感的に操作



ホーム画面に戻る



画面を動かす



アプリを起動する



テキストを編集する



拡大／縮小



アプリを並び変える／消す



ジェスチャー操作のおさらい

従来の携帯電話（ガラケー）と違つてiPhoneが使いやすいのは、本体前面にはホームボタンしかなく、あらゆる操作を指によるジェスチャ操作（マルチタッチ操作）で行える点だ。これによって子どもからシニア層まで幅広いユーザーが直感的に利用できるようになっている。

「設定」でカスタマイズ

iPhoneを使いこなすなら、まずはマルチタッチ操作の基本はしっかりと理解しておきたいところだ。

また、iOS 8ではiPhone 6と6Plusだけで有効となる新たな画面表示方法も搭載されている。iOS 8の各種設定は「設定」アプリから行えるので、iPhoneを購入したら真っ先に自分用にカスタマイズを楽しもう。

画面の拡大機能



標準



拡大



標準



拡大



iPhone 6と6Plusには、画面表示の拡大機能がある。これは従来からある画面のズームや文字の大きさを変えるものではなく、標準と拡大の2段階で画面表示を切り替えるもの。「設定」アプリの「[画面表示と明るさ]」から「[画面表示の拡大]」を選び、「[拡大]」「[標準]」を切り替えると再起動後に画面表示が切り替わる。

横向き表示



iPhone 6Plusでは横向きに持って操作する機会が多いため、iPadのようにホーム画面が横向き表示に対応している。横向きにしてもドックの位置は変わらないが、中のアイコンは向きを変える。両手で使うことが前提ならば非常に使いやすい。ホーム画面だけでなく、カレンダーやメール、設定など一部アプリの操作画面を横向きにした際、iPhone 6Plus独自の2ペイン表示に切り替わって多くの情報を1画面で確認できる。また横向きの「日本語-ローマ字」キーボードでカット／コピー／ペーストやカーソル移動がワンタッチで行える専用キーが使える。

6／6Plusの画面表示

ワイヤレス 7

最大150MbpsのLTEと 11ac対応Wi-Fiで高速に



各キャリアのLTE帯域幅

	ドコモ	au	ソフトバンク
700MHz	10MHz	10MHz	10MHz※
800MHz	10MHz	10MHz	なし
900MHz	なし	なし	10MHz
1.7GHz	20MHz	なし	10MHz
2GHz	10MHz	20MHz	15MHz

※ワイモバイル網

LTE対応のiPhone 5が発売されてから2年経過し、各社のLTEの基地局の整備はかなり進んだが、同じ周波数帯ではほとんどがまだ10MHz幅ばかり。20MHz幅は、ドコモの1.7GHz帯、auの2GHz帯のみである。電波の利用は免許制であるから仕方がない面もあり、そのためのキャリアアグリゲーションなのである。

iPhone 6／6プラスでは、大幅に強化されたネットワークも特徴だ。iPhone 5sや5cでは、対応するLTEの周波数帯が17バンドから20バンドに増加。また、対応する周波数通信方式に合わせて、地域別に異なるiPhone本体が用意されていたが、iPhone 6シリーズでは1つのハードウェアでFDD方式とTDD方式のLTEに両対応する。

日本でLTEといえばFDD方式だが、中国などの一部の地域ではTDD方式のほうが主流だ。日本では「ソフトバンク4G」と「Wi-MAX 2+」としてTDDとLTEもある程度普及しており、iPhone 6／6プラスでこれら

iPhone 6／6プラスでは、LTE以外に高速無線LANのデータ通信をさらに高速化したLTEは各キャリアが獲得している。周波数のうち、どれだけの帯域幅を使うかで速度が変わり、5MHz幅ごとに37.5Mbps(下り)ずつアップする。

従来は、5MHz幅に接続したら5MHz幅内の周波数帯でしか通信が行えなかつたのだが、複数の異なる周波数帯の電波を同時に利用して通信の高速化を図るのがCAである。CAに対応する国内キャリアは今のところauのみだが、ドコモは2014年度内に、ソフトバンクは

ネットがより高速に楽しめる

のネットワークを使えるようになつた点は大きい。

また、キャリアアグリゲーション(以下、CA)という技術に対応して最大150Mbpsで通信可能となつた点にも注目だ。3G規格のデータ通信をさらに高速化した

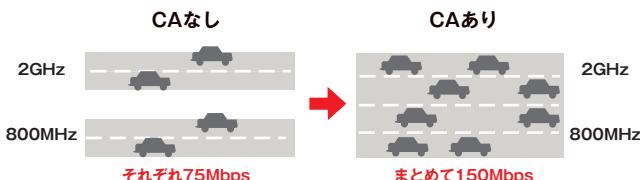
Wi-Fiも高速化

2015年度以降の対応を表明している。

iPhone 6／6プラスでは、LTEをを使ったより高音質な通話やビデオ通話などを可能にする「VoLTE(ボルテ)」にも対応した(これまでのiPhoneは音声通話には3G通信に切り替わっていた)。国内でVoLTEのサービスを行っているのは現状ドコモのみで、iPhoneへの対応も予定されている。一方のソフトバンクとauも、導入は予定しているものの時期は未定だ。

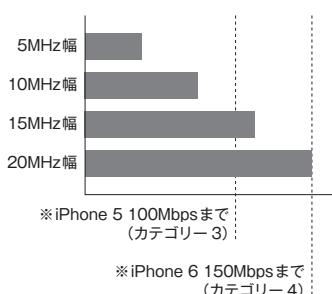
なお、iPhoneやiPadでは、iOS 7以降を搭載した端末で音声／ビデオ通話が行える

キャリアアグリゲーションとは



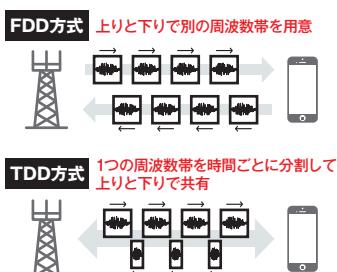
よくある例えだが、電波を道路に置き換えてみよう。1車線が5MHz幅に相当し、通信速度は37.5Mbps(下り)である。2車線なら倍の75Mbps、4車線なら150Mbpsになるのだが、かといって土地がないので4車線にすることはできない。そこで別ルートの道路を作り、合計4車線として利用するのがCAである。

LTEの周波数帯別の通信速度



iPhone 5s／5c自体は15MHz幅を使えば最大100Mbpsで受信可能だったが、実際に利用できるようになったのは2014年半ば。そもそもiPhone 5が発売された2012年の後半は大半が5MHz幅(37.5Mbps)の基地局であり、10MHz幅でつながるようになったのも2013年以降だった。20MHz幅の基地局が全国的に使えるようになるには、しばらく時間がかかるものと思われる。

FDDとTDDの違い



今回はTDD方式が日本でも利用可能になった。TDD(時分割複信)はミリ秒単位で分割して同一の周波数帯を使いながら上り／下りの通信を行う。周波数の確保が容易だが、上下信号が衝突する可能性がある。FDD(周波数分割複信)は上り／下りを専用の帯域で通信するため必要な帯域を用意しなければならないが、上下の信号が衝突することがない。

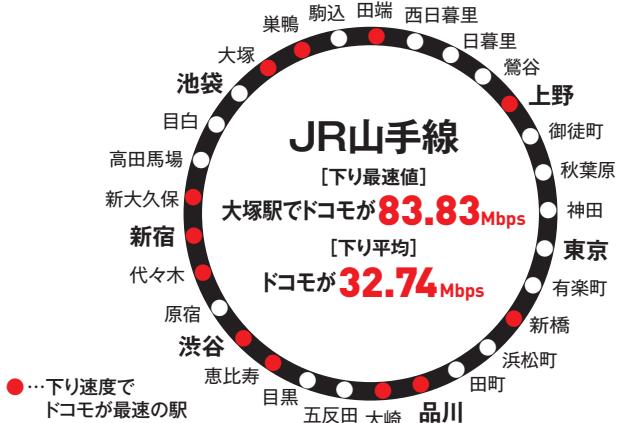
アップル独自の通信サービス「Face Time Audio」も用意されているので併せて利用したい。

さらにiPhone 6／6プラスでは、LTE以外に高速無線LAN規格の802.11acに対応している。この規格は従来の11n規格と比べて、通信速度は約11.5倍となる最大1.3Gbpsを実現。Wi-Fiによる高速なインターネットが楽しめる。ただし、11acでどれくらいの速度を実現できるかは端末に搭載されているアンテナの本数に影響される。アップルはiPhone 6と6プラスのアンテナ本数を公開していないが、アンテナを2本使う2ストリーム仕様と考えられているため最大867Mbpsでの通信速度になるだろう。

iPhoneの通信環境は ドコモのフルLTEが快適

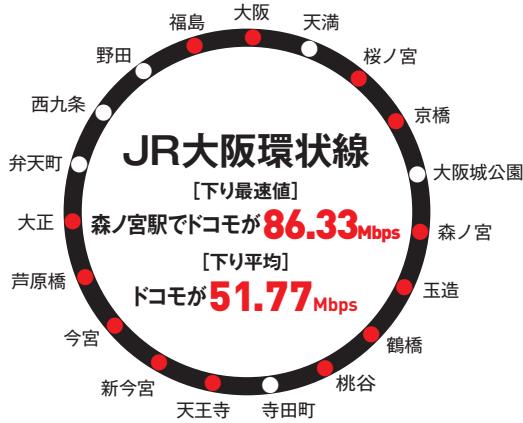


東京・大阪主要エリア&東京6大学における通信速度をチェック!



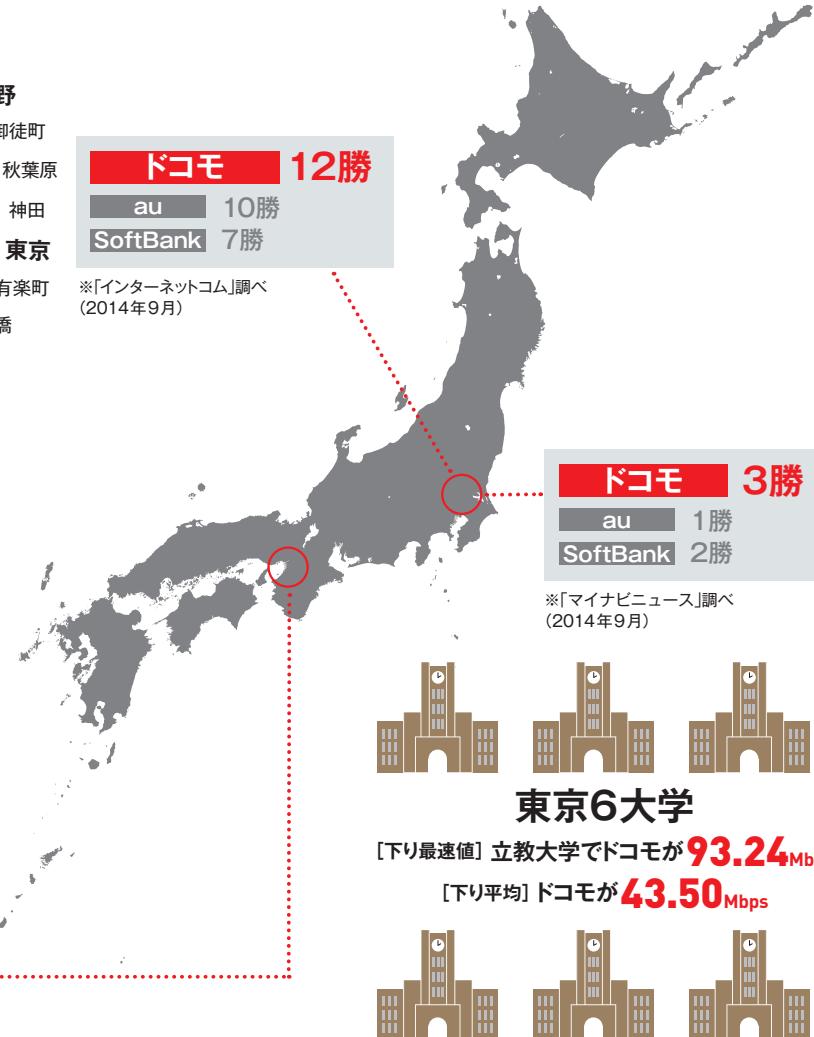
ドコモ	12勝
au	10勝
SoftBank	7勝

※「インターネットコム」調べ(2014年9月)



ドコモ	13勝
au	3勝
SoftBank	3勝

※「goo スマホ部」調べ(2014年9月)



速さの秘密はフルLTE

では、どうしてこのような結果が出たのか。結論を先にいってしまえば、それはドコモが提供する「フル

LTE」では、どうしてこのような結果が得られるか。結論を先にいってしまえば、それはドコモが提供する「フル

LTE」で、料金とともに大きなポイントになるのが、「ネットワークの「つながりやすさ」や「通信速度」」に関してだ。上の図は、各インターネットサービスサイトが大手キャリア3社のiPhone 6の通信速度を比較した際の結果だ。JR山手線、JR大阪環状線、東京6大学で計測したものの、測定には通信スピード測定アプリ「RBB TODAY SPEED TEST」を用い、各エリアで数回測定した結果を掲載している。

東京の大動脈といえる山手線においては、29駅中12駅でドコモが下り最高速度を記録。JR東日本が「駅別乗車人員データ」で公表している乗車人数トップ5駅の中にランクインしている新宿、渋谷、品川でも高い数値を出している。また、大阪の中心を回る大阪環状線の全19駅の速度においても、上りは全駅で、下りは13駅でドコモがトップに立つている。

さらに、東京6大学(早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学、法政大学、立教大学、東京大学)で調べた結果を見てみると、6校中3校において、ドコモが下り最高速度を記録。スマートフォン保有率が高い学生が集まる大学という場所において、つながりやすさが証明された形だ。

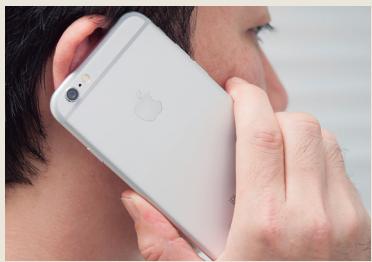
圧倒的に安定しているドコモ

ドコモは
iPhone
でも
対応予定

「VoLTE」で 高音質通話を楽しむ

VoLTE（ボルテ）は「Voice over LTE」の略で、LTEネットワーク上で音声通話が行える技術だ。通常の音声通話と比べ、「高音質通話」「発着信の高速化」などが特徴に挙げられる。通話料に関しては、現状既存のものと同じだ（ドコモはカケホーダイにも適用）。各キャリアともiPhone 6／6プラスへの対応は未定だが、近い将来に期待したい。

高音質通話ができる



発着信が早い

接続ケース	接続時間
VoLTE	約3秒
3G(CSフォールバック)	約6～8秒

対応周波数帯域は、3Gが300Hz～3.4kHz、VoLTEが50Hz～7kHzと広域まで対応。低音から高音まで、よりクリアに声を再現できる。

LTEによるところが大きい。

フルLTEという言葉はあまり聞

き慣れないが、それを理解するためには、まずドコモの「クアッドバンドLTE」について理解しておく必要がある。

クアッドバンドLTEとは、ドコモが使用する4つの周

波数帯1.7GHz帯、1.5GHz帯、800MHz帯、2GHz帯を指す。

LTEは周波数帯の低いバンドほど電波が入り込みやすく、ドコモ

が保有する800MHz帯はいわゆる「プラチナバンド」と呼ばれ、建

物の中などでも通信が途切れにくく

なる利点がある。この4つの周波数

帯を効率よく利用することで、ドコモのストリーミングポイントである「速

さ」と「快適さ」を表現しているのだ。

ドコモでは、このクアッドバン

ドのうち、1.7GHz帯と1.5GHz

帯を100%LTE専用帯域とし

て使うため、「フルLTE」と呼称

している。iPhoneは1.5GHz

帯を使用することができないが、

ユーザ数の多い都市部（いわゆる

東京、名古屋、大阪の「東名阪」）

においては1.7GHz帯の下り最大

150Mbpsを使用することでの

「混まない」「速い」「つながりやす

い」通信環境を実現しているのだ。

ドコモでは、LTEエリアのさらなる拡充も進めている。LTEに対応した基地局は2014年9月現在7万7000局あるが、2015年3月末には9万5300局への拡大を予定しており、これによりFOMAの基地局数とほぼ同等になる見込みだ。そして、そのLTE基

基地局にも違いが

「混まない」「速い」「つながりやすい」通信環境を実現しているのだ。

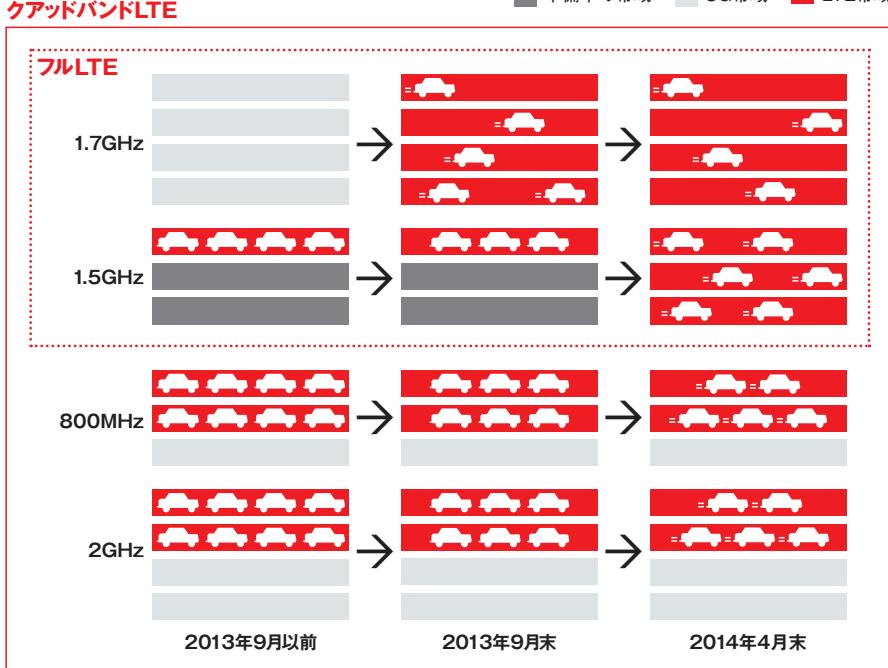
将来性で選ぶのもドコモ

ドコモは次世代通信規格である「LTEアドバンスト（LTE-Advanced）」の導入にも積極的だ。複数の帯域を束ねて通信するキャリアアグリゲーション（CA）を使って、下り最大225Mbpsの高速通信を提供できるようになる。さらにその後、第五世代通信規格「5G」の開発を進めることで、下り最大10Gbpsの通信速度を目指している。将来的にiPhoneへの対応も期待したい。

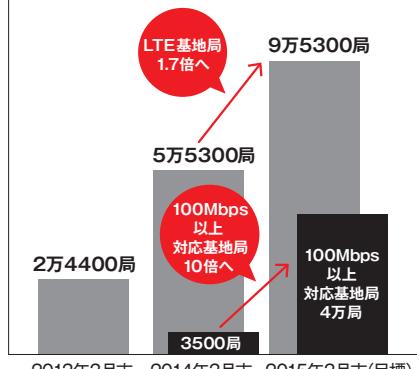
ドコモでは、LTEエリアのさらなる拡充も進めている。LTEに対応した基地局は2014年9月現在7万7000局あるが、2015年3月末には9万5300局への拡大を予定しており、これによりFOMAの基地局数とほぼ同等になる見込みだ。そして、そのLTE基

クアッドバンドLTEとフルLTE

■ 準備中の帯域 ■ 3G帯域 ■ LTE帯域



広がるドコモのLTEエリア



LTEの高速通信エリアが2015年3月末にはさらに拡大。FOMAの基地局とほぼ同等になる。

クアッドバンドLTEの中でも、100%LTE専用の帯域である1.7GHz帯と1.5GHz帯をドコモはフルLTEと呼んでいる。iPhoneの場合は1.7GHz帯を使うことで下り最大150Mbpsの通信速度を実現している。

家族で使うなら ドコモの料金プランがお得!



ドコモの料金プラン

1人で利用する場合 データMパック(標準):データ量5GBの場合

	基本プラン	インターネット接続サービス	パケットパック	シェアオプション	割引サービス	ボーナスパケット	合計
個人契約 	カケホーダイ プラン 2700円/月	spモード 300円/月	データMパック (標準) 5GBの場合: 5000円/月	—	ずっとドコモ割 -800円/月 ※15年以上利用の場合	iPhone ボーナスパケット キャンペーン (最大13カ月) +1GB	7200円/月 6GB

4人家族で利用する場合 シェアパック15(標準):データ量15GBの場合

	基本プラン	インターネット接続サービス	パケットパック	シェアオプション	割引サービス	ボーナスパケット	小計	合計
父(代表回線) 	カケホーダイ プラン 2700円/月	spモード 300円/月	シェアパック15 (標準) 15GBの場合: 1万2500円/月	—	ずっとドコモ割 -1000円/月 ※15年以上利用の場合	iPhone ボーナスパケット キャンペーン (最大13カ月) +1GB	1万4500円/月	
母 	カケホーダイ プラン 2700円/月	spモード 300円/月	—	500円/月	—	iPhone ボーナスパケット キャンペーン (最大13カ月) +1GB	3500円/月	家族4人で 2万4000円/月 21GB
兄(25歳以下) 	カケホーダイ プラン 2700円/月	spモード 300円/月	—	500円/月	U25応援割 -500円/月	iPhoneボーナス パケットキャンペーン (最大13カ月) +1GB / U25応援割+1GB	3000円/月	(1人あたり 6000円/月)
妹(25歳以下) 	カケホーダイ プラン 2700円/月	spモード 300円/月	—	500円/月	U25応援割 -500円/月	iPhoneボーナス パケットキャンペーン (最大13カ月) +1GB / U25応援割+1GB	3000円/月	1人あたり1200円/月 家族で年間 5万7600円お得!

→家族でパケットをまとめると、家族それぞれが個別で契約するよりも、ムダをなくせる

※父・母・兄・妹ともデータMパック(標準)でiPhoneを利用した場合

ドコモでiPhone 6/6Plusを契約する際は、国内での音声通話が定額料金で利用できる「カケホーダイプラン」(2700円/月)に加え、インターネット接続サービス(spモード : 300円/月)、データ量の異なる複数のプランが用意されており、利用用途に合わせて選ぶことが可能だ。割引サービスの「ずっとドコモ割」を併用した場合、合計5900円/月(26歳以上で1人で利用の場合。機種代金を除く)が用意されており(10/15/20/30GBの4つのプランから最適なものを選択可)、ここから家族の代表者が1つのパケットプランに契約。他のメンバーは月額500円のシェアオプションに加入することで、家族皆でデータ量を共有できるほか、余ったデータ量を翌月に繰り越してできる。

また、家族でドコモを利用しているならば「カケホーダイ&パケツク」は、さらにおすすめだ。パケット定額サービスに「シェアパック」が用意されており(10/15/20/30GBの4つのプランから最適なものを選択可)、ここから家族の代表者が1つのパケットプランに契約。上記の4人家族を例にすると、4人それぞれが個別に契約するよりも、データ量を効率よく使え、なおかつこれだけの料金の節約になるとは驚きた。

5万7600円もお得となる。データ量を効率よく使ったほうが年間で

ドコモでiPhone 6/6Plusを契約する際は、国内での音声通話が定額料金で利用できる「カケホーダイプラン」(2700円/月)に加え、インターネット接続サービス(spモード : 300円/月)、データ量の異なる複数のプランが用意されており、利用用途に合わせて選ぶことが可能だ。割引サービスの「ずっとドコモ割」を併用した場合、合計5900円/月(26歳以上で1人で利用の場合。機種代金を除く)が用意されており(10/15/20/30GBの4つのプランから最適なものを選択可)、ここから家族の代表者が1つのパケットプランに契約。他のメンバーは月額500円のシェアオプションに加入することで、家族皆でデータ量を共有できるほか、余ったデータ量を翌月に繰り越してできる。

また、家族でドコモを利用しているならば「カケホーダイ&パケツク」は、さらにおすすめだ。パケット定額サービスに「シェアパック」が用意されており(10/15/20/30GBの4つのプランから最適なものを選択可)、ここから家族の代表者が1つのパケットプランに契約。上記の4人家族を例にすると、4人それぞれが個別に契約するよりも、データ量を効率よく使ったほうが年間で

家族でまとめるよりお得

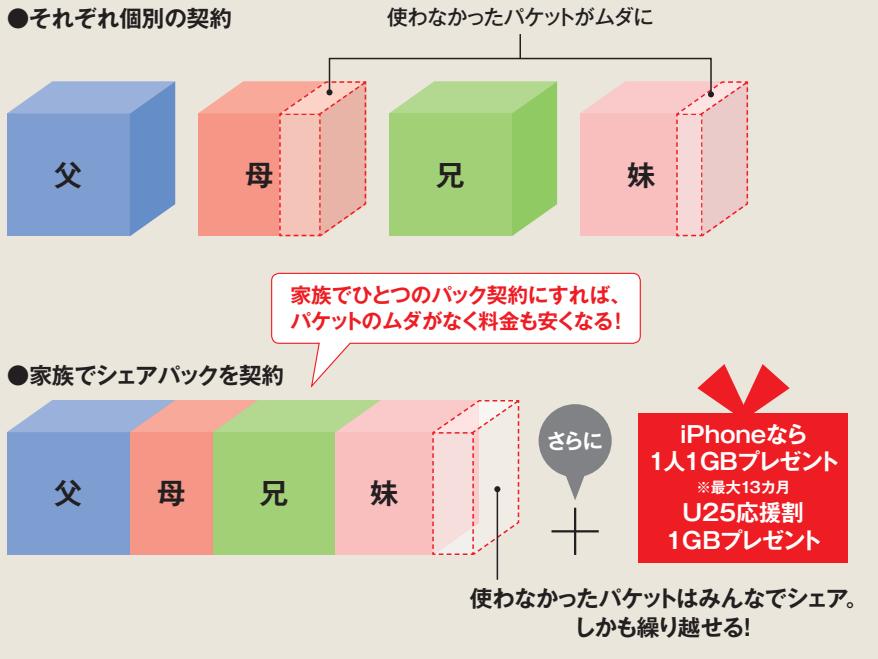
「シェアパック」「カケホーダイプラン」

家族でデータ量をまとめる「シェアパック」には、10GBから30GBまで4種類のプランが用意されており、月額9500円から2万2500円で利用できる。それぞれの使用量に合わせてパケットを家族で分けあえるので、ムダをなくすことができる。また、「パケットくりこし」により、使わなかつたパ

ケットがあつたら、1GB単位で翌月に繰り越すことができるのもうれしい点だ。

また、ドコモの基本プランである「カケホーダイプラン」は、月額2700円で国内通話を利用できる。ドコモだけでなく、他社の携帯電話や固定電話にも話し放題になるので、安心して通話を楽しめる点も注目だ。

パケットを家族でまとめて繰り越しもできるからお得!



「iPhoneボーナスパケット」 割引・サービス

「iPhoneボーナスパケット」は、MNPや機種変更で新たにiPhoneを購入する人を対象に、申込み月から最大13カ月間、月々の利用可能データ量が1GB増量されるサービスだ。U25応援割と同様に家族間でシェア可能だ。

iPadも
お得に
使える

iPhoneといっしょなら プラス1500円からiPadも使える!

iPhoneで「カケホーダイ&パケあえる」を利用していれば、iPadも割引で利用することができる。iPad利用時に必要な基本プランである「データプラン」(月額1700円)とインターネット接続料金(月額300円)は必要だが、これにシェアオプション(月額500円)を加えた月額2500円でiPadも使えるようになるのだ(端末料金は除く)。しかも今なら「データプラン得得キャンペーン」適用で最初の3カ月が月額1500円になるので、よりお得に始めることができる。また、個人で「データS、M、Lパック」に契約している場合でも「2台目プラス」に申し込めば、iPhoneで加入しているデータ量をシェアできる。なお、iPhoneボーナスパケットのiPad版ともいえる「iPadボーナスパケット」により、最大13カ月間、月々の利用可能データ量が1GB増量される特典もある。



基本プラン(データプラン)

1700円/月

インターネット接続サービス(spモード)

300円/月

シェアオプション

500円/月

月2500円から使える!

データ量も
1GB増量!

今ならデータプラン得得キャンペーン適用で、
最初の3カ月は

月1500円から使える!

さらに
データ量も
1GB増量!

*iPadを新たに購入し、「月々サポート」割引を申し込んだ方が対象

「ずっとドコモ割」

「ずっとドコモ割」はドコモの利用年数に応じてパケットパックの料金が割引されるもの。契約年数が5年を超えるユーザから対象で、5年以上、8年以上、10年以上、15年以上の4段階で割引額が変わる。15年以上で最大2000円引きになるので、長年ドコモを使ってきたユーザはぜひともチェックしたいサービスだ。



転ばぬ先の杖 補償サービスのすすめ

一方、キャリアによるサービス内容は各社によって異なる。ドコモの「ケータイ補償サービス for iPhone & iPad」(月額600円)では、iPhoneの故障・破損はもちろん、紛失・盗難などに対応している。こちらは2年間という利用期間のあるauの「紛失

ドコモならずつと補償

iPhone向けには2種類ある。1つはアップルが行っている「アップルケア・プラス(AppleCare+)」、そしてもう1つが各キャリアが独自で展開するサービスだ。

そもそもiPhone、iPadには購入後1年間のハードウェア製品保証が付いており、1年の間に起きた自然故障であれば無料で修理を受けられる。さらに90日間の無償電話サポート期間もあるので、この期間内であれば電話サポートも無料だ。

アップルケア・プラスはこの1年間の本体保証と90日間の電話サポート期間を、それぞれ2年間に延長するもの。さらに、操作上の不慮の事故に対する修理などのサービスを、1回につき7,800円(税込)のサービス料で最大2回まで受けることができる。

急な故障や盗難に備える

「落としたら画面が割れてしまつた」「ドーピーをこぼして動かなくなつた」など、気をつけていてもちょっととした不注意でiPhoneが壊れてしまうことがある。また、紛失や盗難などのリスクも考えられるので、iPhoneの補償サービスには加入しておきたい。

iPhone向けには2種類ある。1つはアップルが行っている「アップルケア・プラス(AppleCare+)」、そしてもう1つが各キャリアが独自で展開するサービスだ。

そもそもiPhone、iPadには購入後1年間のハードウェア製品保証が付いており、1年の間に起きた自然故障であれば無料で修理を受けられる。さらに90日間の無償電話サポート期間もあるので、この期間内であれば電話サポートも無料だ。

一方、キャリアによるサービス内容は各社によって異なる。ドコモの「ケータイ補償サービス for iPhone & iPad」(月額600円)では、iPhoneの故

り3年目以降に故障や盗難といったトラブルが起きた場合も、サービスに加入し続けており補償を受けることができる。

また、端末を交換することになった場合、「ケータイ補償お届けサービスセンター」に連絡することで、交換端末を届けてくれるのもうれしい(1年間に2回まで)。全損などの場合でも、ドコモなら再購入ではなく端末を「交換」するため、端末にかかる毎月の割引も継続して受け取ることができる。

なお、受付は全国のドコモショップで対応している。アップルストアや正規のサービスプロバイダの店舗が遠方という人でも、万が一のとき

すべてのiPhoneに付く アップルの保証サービス



AppleCare Products

対象機種	iPhone 5s iPhone 5c iPhone 6 iPhone 6 Plus など
サービス内容	●ハードウェアの保証(購入後1年間) ●無償電話サポート(購入後90日間)

すべてのiPhoneには、アップルの保証サービスが付いている。それに追加するかたちでアップルケア・プラス、もしくは各キャリアが提供する独自の補償サービスが提供されている。

各社補償サービス比較表(iPhoneの場合)

	アップル			ドコモ			au			SoftBank				
サービス名称	AppleCare+ for iPhone			ケータイ補償サービス for iPhone & iPad			紛失補償オプション(i) ※AppleCare+ for iPhoneとのセット販売のみ			あんしん保証パック(i)				
対象機種	iPhone 5s / iPhone 5c iPhone 6 / iPhone 6 Plus			iPhone 5s / iPhone 5c iPhone 6 / iPhone 6 Plus			iPhone 5s / iPhone 5c iPhone 6 / iPhone 6 Plus			iPhone 5s / iPhone 5c iPhone 6 / iPhone 6 Plus				
受付窓口	アップルストア8店舗および アップルの正規サービスプロバイダ			ドコモショップ 全都道府県2400店舗			アップルストア8店舗および アップルの正規サービスプロバイダ			アップルストア8店舗および アップルの正規サービスプロバイダ				
補償範囲	自然故障	破損 水濡れ	全損・盗難 紛失	自然故障	破損 水濡れ	全損・盗難 紛失	自然故障	破損 水濡れ	全損・盗難 紛失	自然故障	破損 水濡れ	全損・盗難 紛失		
1年目	無償修理	上限7800 円(税込) 2年間で 2回まで	端末再購 入	アップルで 無償修理			無償修理	上限7800 円(税込) 2年間で 2回まで	再購入費 2万3148 円補填	アップルで実費修理した 代金の85%~95%を還元 ※アップルで修理後手続きが必要				
2年目		交換端末を1~2日以内にお届け 貢献金7500円 (1年間に2回まで、契約期間中有効)						実費負担						
3年目以降	実費負担									会員価格で販売				
その他 アフターサービス特典	――			――			スマートバス会員(390円/月)は 修理代金7800円を返金 ※2年間で2回まで			――				
料金	9400円			500円(5c) /月 600円(5s/6/6 Plus) /月			552円(初回のみ323円) /月 (AppleCare+ for iPhoneを含む)			500円/月				

映画もマンガも音楽も定額で見放題



docomo IDがあればdマーケットはすぐ使える



ドコモのiPhoneには、dマーケットの各ストアへのアイコンがプリインストールされている。ドコモのiPhoneを持っていなくとも、docomo IDを持っていればdマーケットは利用可能だ。

dマーケットのコンテンツはiPhone上だけではなく、「Apple TV」(Apple TV)と連携させることでより楽しめる。Apple TVを家庭にあるテレビとHDMIケーブルと接続しておぐだ。

「dマーケット」はドコモの提供するコンテンツマーケットで、アニメやマガジン、音楽、ビデオ、ショッピング、ゲームといったさまざまなエンターテインメントコンテンツが販売されている。ドコモのiPhoneを契約した場合、dマーケットの各コンテンツストアへのアイコンが端末にあらかじめインストールされているため、購入したその日からさまざまなコンテンツを楽しむことができる。また、アップストア(App Store)から専用アプリをダウンロードすることも可能だ。

Apple TV
開 アップルジャパン
価 9800円

けで、ワイヤレスでiPhoneで表示しているコンテンツをテレビに大画面表示できる。中でも動画コンテンツを配信する「dビデオ」などはエアプレイ(AirPlay)に対応しているので、アプリ上で再生している動画をアップルTV経由で簡単にテレビへ切り替えるが可能。家族で一緒に楽しみたいならばアップルTVも合わせて購入するのがおすすめだ。

映画や雑誌、音楽などさまざまなコンテンツを楽しもう



人気雑誌90誌以上が読み放題 dマガジン

価 400円(月額)

90誌以上の人気雑誌や記事が揃うのが、dマガジンだ。ファッション・ビジネス・趣味・ゲームなど多岐にわたるジャンルの中から人気雑誌をiPhoneでサクサクと閲覧しよう。『Mac Fan』も提供中。もちろん、iPadでも楽しめる。

2万タイトル以上の動画が見放題 dビデオ

価 500円(月額)

dビデオは、日本最大級の動画配信サービス。約2万3000タイトルの映画やドラマが月額500円で見放題だ。また、月額会員でなくとも、最新作を1本単位でレンタルすることも可能(レンタル料金は作品によって異なる)。昔の作品から最新の話題作まで、幅広くカバーしているのが特徴だ。

いつでもどこでも好きな曲を dヒッツ

価 500円(月額)

dヒッツでは、最新の楽曲から懐かしの名曲まで、ヒット曲満載の約300プログラムが聴き放題。特集やアーティスト別のチャンネルからプログラムを選ぶことができるほか、毎月3曲までお気に入りの曲を登録して好きなときに聴ける「myヒッツ」という機能も用意されている。

国内最大級の品揃え dアニメストア

価 400円(月額)

dアニメストアはアニメーションを専門配信しているマーケットで、現在約1100作品が配信されている。月額400円で過去の傑作から最新の話題作まで、多数の作品を楽しめる。話題のアニメを1話ずつゆっくり楽しむもよし、全話まとめて視聴するもよし。

Special Edition

Mac Fan for iPhone 6

Mac Fanはアップルプラットフォームを中心とした月刊専門誌(毎月29日発売)。
2014年10月発行 株式会社マイナビ

購入者:瀬海亮

顧客ID:696604

購入日時:2024/02/02 23:20